

平成 28 年 6 月の熱中症による救急搬送状況

熱中症による救急搬送人員数について、平成 28 年 6 月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 平成 28 年 6 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は 3,558 人でした。これは、昨年 6 月の救急搬送人員数 3,032 人と比べると 526 人増となっています。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、傷病程度別の内訳等については次の通りです。
 - 救急搬送人員数の年齢区分では、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児の順となっています。
 - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症の順となっています。
 - 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数は、沖縄県が最も多く、次いで鹿児島県、熊本県の順となっています。
- 今後、梅雨明けとともに、気温が上昇してくる可能性が高いため、「こまめに水分補給をする」「暑さを避ける」「暑さに負けない体力をつける」など、引き続き十分な熱中症予防対策が必要です。

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。消防庁では今年度、新たな熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」を作成しました。全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁 HP にコンテンツを掲載していますので、是非御活用ください。

消防庁 HP 『熱中症情報』

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

【資料】平成 28 年 6 月の熱中症による救急搬送状況



(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：森川、勝森、足立
電話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

平成28年6月の熱中症による救急搬送状況の概要

平成28年6月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

平成28年6月の全国における熱中症による救急搬送人員数は3,558人でした。これは、昨年6月の救急搬送人員数3,032人と比べると526人増となっています。

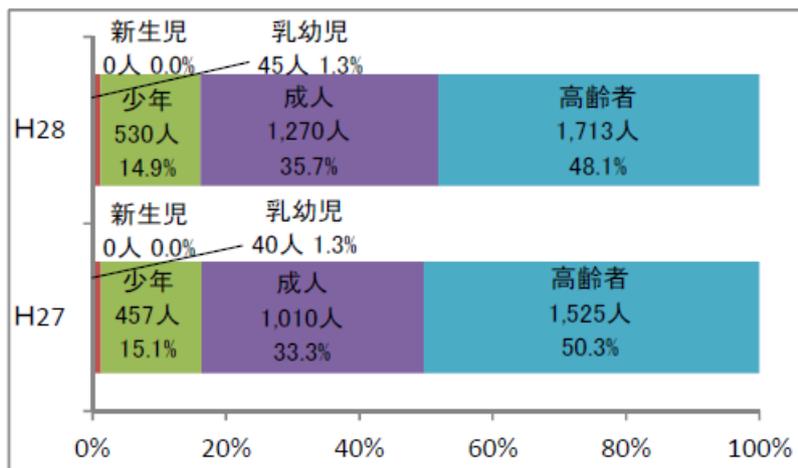
(資料1、2、3、5、6)

2 内訳

(1) 年齢区分ごとの救急搬送人員数

高齢者(満65歳以上)が1,713人(48.1%)、次いで成人(満18歳以上満65歳未満)1,270人(35.7%)、少年(満7歳以上満18歳未満)530人(14.9%)、乳幼児(生後28日以上満7歳未満)45人(1.3%)の順となっています。(資料1、5)

熱中症救急搬送人員数 年齢区分別 (構成比)



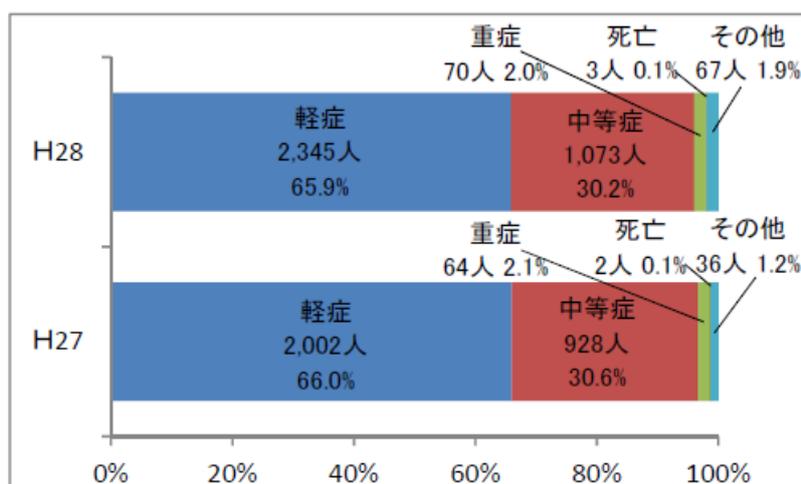
凡例

新生児：生後28日未満の者
 乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
 少年：満7歳以上満18歳未満の者
 成人：満18歳以上満65歳未満の者
 高齢者：満65歳以上の者

(2) 医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

軽症が最も多く2,345人(65.9%)、次いで中等症1,073人(30.2%)、重症70人(2.0%)の順となっています。(資料1、5)

熱中症救急搬送人員数 初診時傷病程度別 (構成比)



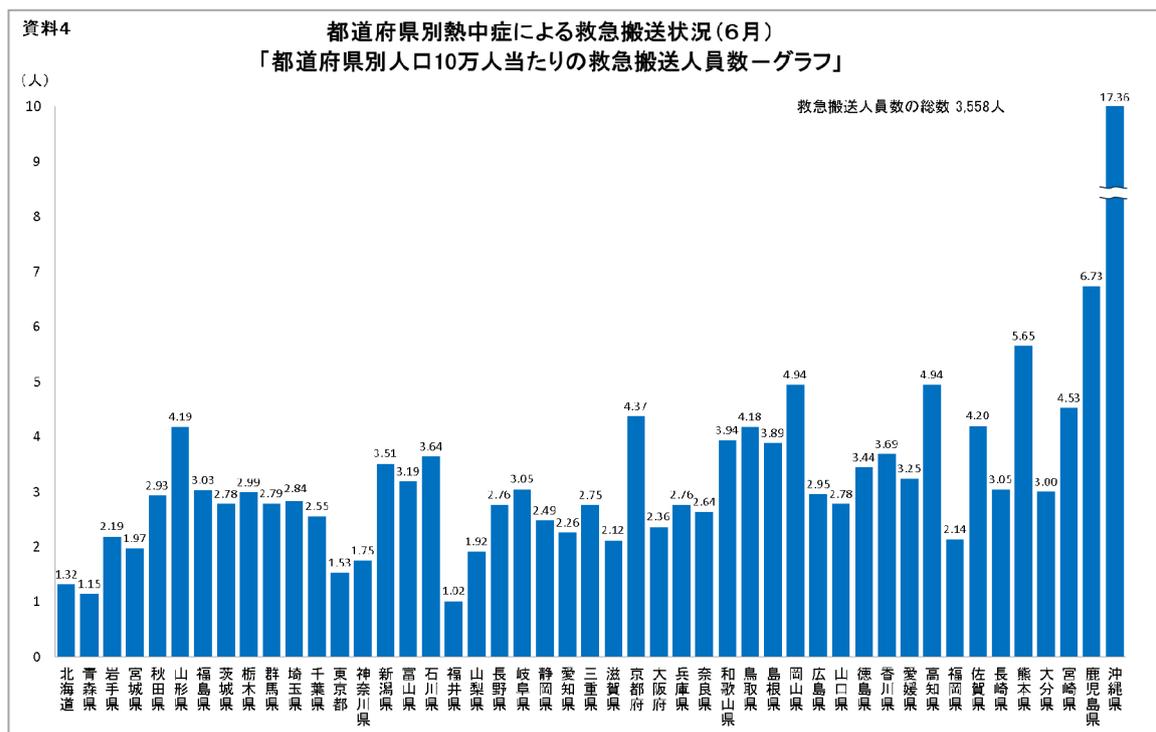
凡例

軽症：入院加療を必要としないもの
 中等症：重症または軽症以外のもの
 重症：3週間以上の入院加療を必要とするもの
 死亡：初診時において死亡が確認されたもの
 その他：医師の診断がないもの
 傷病程度が判明しないもの
 その他の場所に搬送したもの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、入院の必要がなかった軽症者の中には、早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

(3) 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数

沖縄県が最も多く17.36人であり、次いで鹿児島県6.73人、熊本県5.65人、岡山県4.94人、高知県4.94人の順となっています。(資料2、4)



【参 考】

○ 熱中症の予防対策について

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。消防庁では今年度、新たな熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」を作成しました。全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁HPにコンテンツを掲載していますので、是非御活用ください。

消防庁HP『熱中症情報』

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

○ 気象庁報道発表資料「6月の天候」より抜粋

- ・ 6月の平均気温は、沖縄・奄美ではかなり高く、東・西日本では高かった。
- ・ 6月中旬の平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美ではかなり高く、北日本では高かった。
- ・ 沖縄・奄美では、6月下旬は太平洋高気圧に覆われやすかったため、日照時間は多かった。また、晴れて日射が強かったことに加え、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、旬平均気温は平年差1.5℃となり、1961年の統計開始以来6月下旬としては最も高かった。

○ 暑さ指数(WBGT)と救急搬送人員数とのデータ比較

暑さ指数と救急搬送人員数との関係について調査をするため、東京都、愛知県、大阪府で両者のデータを比較することにしました。(参考資料)

平成 28 年 6 月の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 都道府県別熱中症による救急搬送状況（6月）
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 2 都道府県別熱中症による救急搬送状況（6月）
「救急搬送人員数昨年比一表」
- 資料 3 都道府県別熱中症による救急搬送状況（6月）
「救急搬送人員数昨年比一グラフ」
- 資料 4 都道府県別熱中症による救急搬送状況（6月）
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数一グラフ」
- 資料 5 全国の熱中症による救急搬送状況（6月）
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 6 平成 22 年～28 年の熱中症による救急搬送人員数及び死亡者数一覽一表
- 資料 7 平成 28 年の熱中症による救急搬送状況（週別推移）一グラフ
- 参考資料 主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数（WBGT）データとの比較一グラフ（5、6月）

資料1

都道府県別熱中症による救急搬送状況(6月)
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

都道府県		平成28年6月1日～6月30日											
		年齢区分(人)					初診時における傷病程度(人)						
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	0	3	25	43	71	1	2	25	41	2	71
2	青森県	0	0	1	5	9	15	0	0	4	11	0	15
3	岩手県	0	0	3	12	13	28	0	1	8	19	0	28
4	宮城県	0	2	7	8	29	46	0	3	20	23	0	46
5	秋田県	0	0	9	3	18	30	0	1	10	18	1	30
6	山形県	0	0	8	24	15	47	1	4	6	36	0	47
7	福島県	0	0	4	26	28	58	0	0	18	40	0	58
8	茨城県	0	0	16	25	40	81	0	2	33	46	0	81
9	栃木県	0	1	7	18	33	59	0	3	25	31	0	59
10	群馬県	0	0	8	21	26	55	0	1	16	38	0	55
11	埼玉県	0	3	29	72	102	206	0	3	55	148	0	206
12	千葉県	0	5	22	72	60	159	0	3	53	103	0	159
13	東京都	0	4	29	85	89	207	0	1	63	119	24	207
14	神奈川県	0	4	43	54	59	160	0	7	48	105	0	160
15	新潟県	0	1	6	37	37	81	0	1	18	61	1	81
16	富山県	0	0	11	11	12	34	0	2	7	25	0	34
17	石川県	0	1	4	16	21	42	0	1	7	34	0	42
18	福井県	0	0	1	4	3	8	0	0	3	5	0	8
19	山梨県	0	0	2	3	11	16	0	0	7	9	0	16
20	長野県	0	1	12	17	28	58	0	0	24	34	0	58
21	岐阜県	0	1	14	19	28	62	0	1	26	35	0	62
22	静岡県	0	2	6	29	55	92	0	3	23	66	0	92
23	愛知県	0	4	18	53	94	169	0	4	44	121	0	169
24	三重県	0	1	7	23	19	50	0	0	8	39	3	50
25	滋賀県	0	0	5	15	10	30	0	1	6	23	0	30
26	京都府	0	1	19	41	53	114	0	1	22	91	0	114
27	大阪府	0	4	34	68	103	209	0	0	49	160	0	209
28	兵庫県	0	1	26	55	71	153	0	2	38	113	0	153
29	奈良県	0	0	4	17	15	36	0	0	12	24	0	36
30	和歌山県	0	0	5	12	21	38	0	1	9	28	0	38
31	鳥取県	0	0	5	5	14	24	0	0	10	14	0	24
32	島根県	0	0	5	7	15	27	0	0	9	18	0	27
33	岡山県	0	1	12	26	56	95	1	2	31	61	0	95
34	広島県	0	2	6	32	44	84	0	2	37	45	0	84
35	山口県	0	0	6	13	20	39	0	0	11	28	0	39
36	徳島県	0	2	8	6	10	26	0	0	8	14	4	26
37	香川県	0	0	6	13	17	36	0	2	16	18	0	36
38	愛媛県	0	1	5	14	25	45	0	0	15	29	1	45
39	高知県	0	0	0	17	19	36	0	3	13	20	0	36
40	福岡県	0	1	19	36	53	109	0	1	45	60	3	109
41	佐賀県	0	0	5	16	14	35	0	1	13	20	1	35
42	長崎県	0	0	11	9	22	42	0	1	16	25	0	42
43	熊本県	0	0	16	32	53	101	0	1	33	66	1	101
44	大分県	0	0	7	8	20	35	0	1	14	20	0	35
45	宮崎県	0	0	7	12	31	50	0	2	10	38	0	50
46	鹿児島県	0	0	15	33	63	111	0	2	47	61	1	111
47	沖縄県	0	2	34	121	92	249	0	4	58	162	25	249
合 計【人】		0	45	530	1,270	1,713	3,558	3	70	1,073	2,345	67	3,558
割 合		0.0%	1.3%	14.9%	35.7%	48.1%	100.0%	0.1%	2.0%	30.2%	65.9%	1.9%	100.0%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

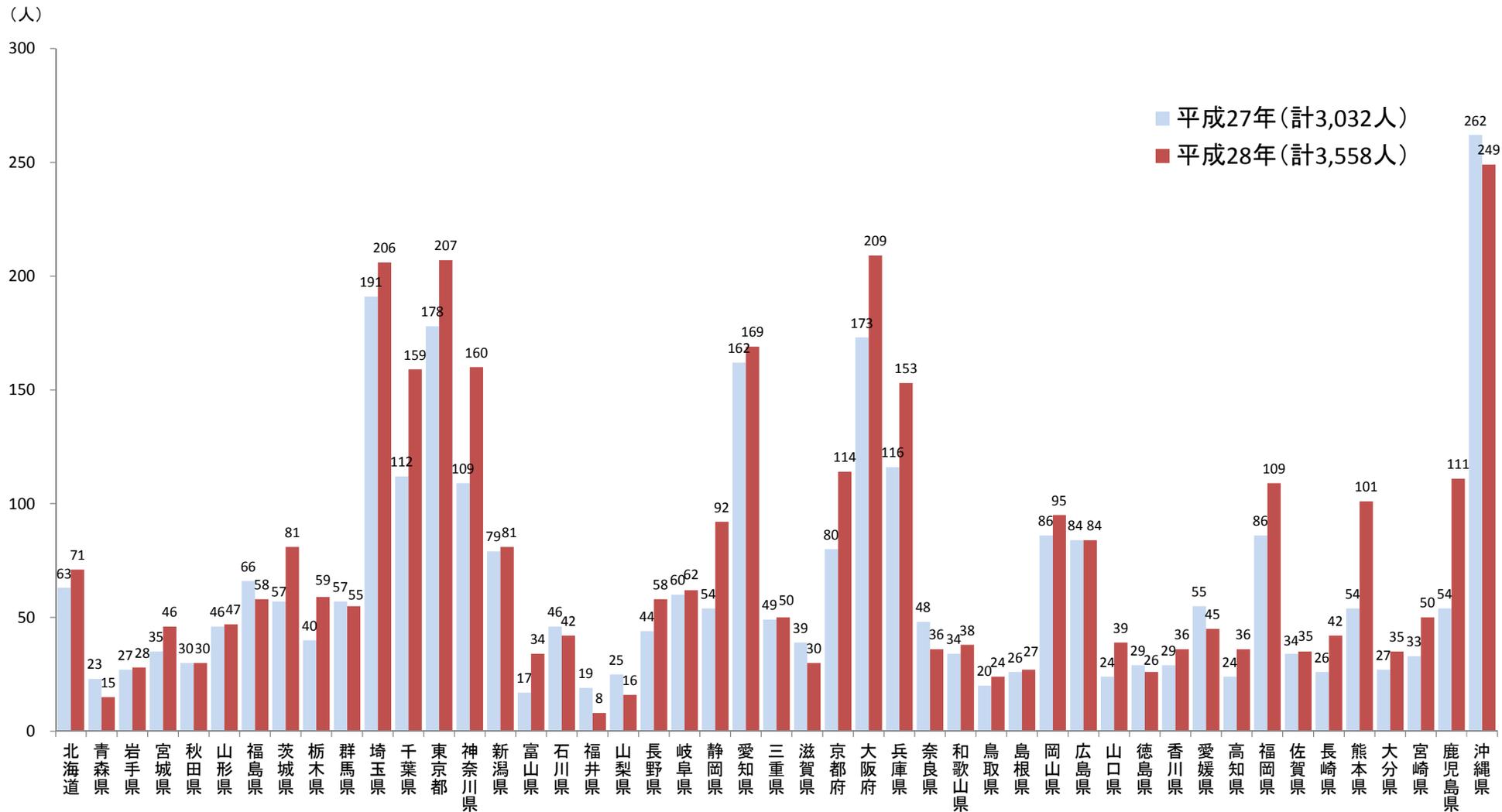
資料2

都道府県別熱中症による救急搬送状況(6月)
「救急搬送人員数昨年比一表」

都道府県	6月1日～6月30日				
	平成27年熱中症 救急搬送人員数 (人)	平成28年熱中症 救急搬送人員数 (人)	うち人口10万人当たりの 救急搬送人員数(人)	昨年比(倍)	
1	北海道	63	71	1.32	1.1
2	青森県	23	15	1.15	0.7
3	岩手県	27	28	2.19	1.0
4	宮城県	35	46	1.97	1.3
5	秋田県	30	30	2.93	1.0
6	山形県	46	47	4.19	1.0
7	福島県	66	58	3.03	0.9
8	茨城県	57	81	2.78	1.4
9	栃木県	40	59	2.99	1.5
10	群馬県	57	55	2.79	1.0
11	埼玉県	191	206	2.84	1.1
12	千葉県	112	159	2.55	1.4
13	東京都	178	207	1.53	1.2
14	神奈川県	109	160	1.75	1.5
15	新潟県	79	81	3.51	1.0
16	富山県	17	34	3.19	2.0
17	石川県	46	42	3.64	0.9
18	福井県	19	8	1.02	0.4
19	山梨県	25	16	1.92	0.6
20	長野県	44	58	2.76	1.3
21	岐阜県	60	62	3.05	1.0
22	静岡県	54	92	2.49	1.7
23	愛知県	162	169	2.26	1.0
24	三重県	49	50	2.75	1.0
25	滋賀県	39	30	2.12	0.8
26	京都府	80	114	4.37	1.4
27	大阪府	173	209	2.36	1.2
28	兵庫県	116	153	2.76	1.3
29	奈良県	48	36	2.64	0.8
30	和歌山県	34	38	3.94	1.1
31	鳥取県	20	24	4.18	1.2
32	島根県	26	27	3.89	1.0
33	岡山県	86	95	4.94	1.1
34	広島県	84	84	2.95	1.0
35	山口県	24	39	2.78	1.6
36	徳島県	29	26	3.44	0.9
37	香川県	29	36	3.69	1.2
38	愛媛県	55	45	3.25	0.8
39	高知県	24	36	4.94	1.5
40	福岡県	86	109	2.14	1.3
41	佐賀県	34	35	4.20	1.0
42	長崎県	26	42	3.05	1.6
43	熊本県	54	101	5.65	1.9
44	大分県	27	35	3.00	1.3
45	宮崎県	33	50	4.53	1.5
46	鹿児島県	54	111	6.73	2.1
47	沖縄県	262	249	17.36	1.0
計		3,032	3,558		

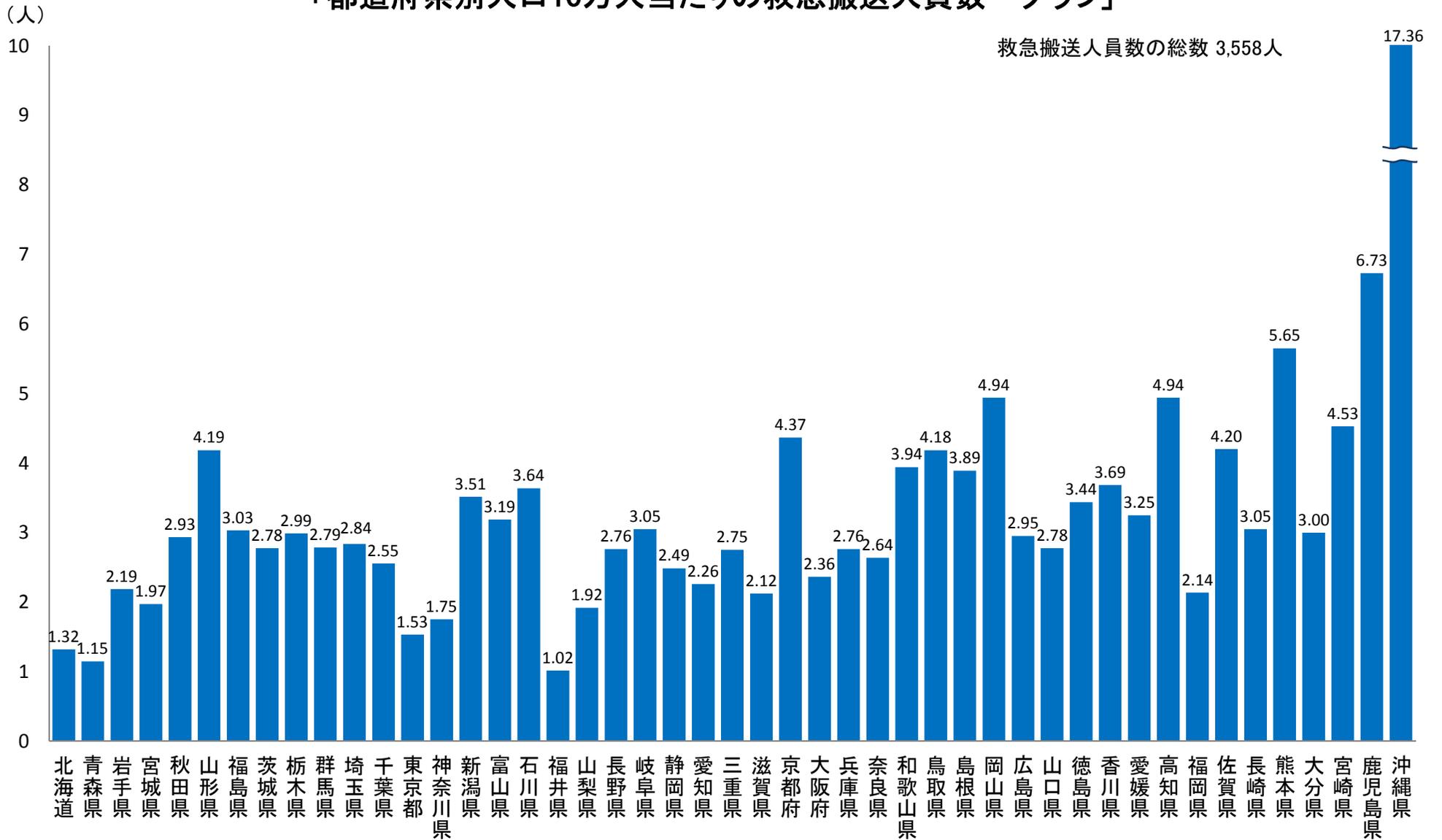
資料3

都道府県別熱中症による救急搬送状況(6月) 「救急搬送人員数昨年比ーグラフ」



資料4

都道府県別熱中症による救急搬送状況(6月)
「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数ーグラフ」



資料5

全国の熱中症による救急搬送状況(6月)

「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

日付	曜日	熱中症 救急搬 送人員 数(人)	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
6月1日	水	51	0	0	6	19	26	51	0	1	17	32	1	51
6月2日	木	45	0	1	11	11	22	45	0	0	16	29	0	45
6月3日	金	71	0	1	18	20	32	71	0	4	15	51	1	71
6月4日	土	72	0	1	19	24	28	72	0	1	19	49	3	72
6月5日	日	56	0	0	14	21	21	56	0	4	19	33	0	56
6月6日	月	42	0	0	6	14	22	42	0	1	14	27	0	42
6月7日	火	35	0	0	5	14	16	35	0	0	13	21	1	35
6月8日	水	112	0	1	23	35	53	112	0	2	36	72	2	112
6月9日	木	57	0	0	8	21	28	57	0	0	25	31	1	57
6月10日	金	217	0	5	25	70	117	217	0	3	64	141	9	217
6月11日	土	258	0	2	64	85	107	258	0	4	74	171	9	258
6月12日	日	183	0	2	27	77	77	183	0	6	49	121	7	183
6月13日	月	36	0	0	5	15	16	36	0	1	14	21	0	36
6月14日	火	138	0	1	18	44	75	138	0	1	53	84	0	138
6月15日	水	159	0	2	7	56	94	159	0	3	50	106	0	159
6月16日	木	30	0	0	3	20	7	30	0	1	8	20	1	30
6月17日	金	169	0	2	24	61	82	169	0	1	49	117	2	169
6月18日	土	430	0	3	98	132	197	430	2	8	106	310	4	430
6月19日	日	156	0	0	30	66	60	156	0	2	33	119	2	156
6月20日	月	183	0	6	9	70	98	183	0	3	61	116	3	183
6月21日	火	117	0	2	15	45	55	117	0	3	38	74	2	117
6月22日	水	74	0	0	3	39	32	74	0	1	22	50	1	74
6月23日	木	162	0	1	12	58	91	162	0	5	63	91	3	162
6月24日	金	53	0	2	5	21	25	53	0	2	15	36	0	53
6月25日	土	74	0	0	16	36	22	74	0	1	23	50	0	74
6月26日	日	204	0	5	28	66	105	204	0	7	56	138	3	204
6月27日	月	133	0	4	16	38	75	133	0	1	45	84	3	133
6月28日	火	44	0	2	3	16	23	44	1	0	12	29	2	44
6月29日	水	80	0	0	5	32	43	80	0	2	26	47	5	80
6月30日	木	117	0	2	7	44	64	117	0	2	38	75	2	117
計		3,558	0	45	530	1,270	1,713	3,558	3	70	1,073	2,345	67	3,558
熱中症の救急搬送人員数に 対する割合			0.0%	1.3%	14.9%	35.7%	48.1%	100.0%	0.1%	2.0%	30.2%	65.9%	1.9%	100.0%

資料6

平成22年～28年の熱中症による 救急搬送人員数及び死亡者数一覧表

(単位:人)

		平成28年(2016)		平成27年(2015)		平成26年(2014)		平成25年(2013)		平成24年(2012)		平成23年(2011)		平成22年(2010)	
		搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡
確定値	5月	2,788	1	2,904	3	調査データなし									
	6月	3,558	3	3,032	2	4,634	6	4,265	4	1,837	3	6,980	14	2,276	4
	7月	\	\	24,567	39	18,407	31	23,699	27	21,082	37	17,963	29	17,750	95
	8月	\	\	23,925	60	15,183	15	27,632	57	18,573	35	17,566	27	28,448	62
	9月	\	\	1,424	1	1,824	3	3,133	0	4,209	1	3,960	3	7,645	10
搬送人員数合計		6,346	4	55,852	105	40,048	55	58,729	88	45,701	76	46,469	73	56,119	171

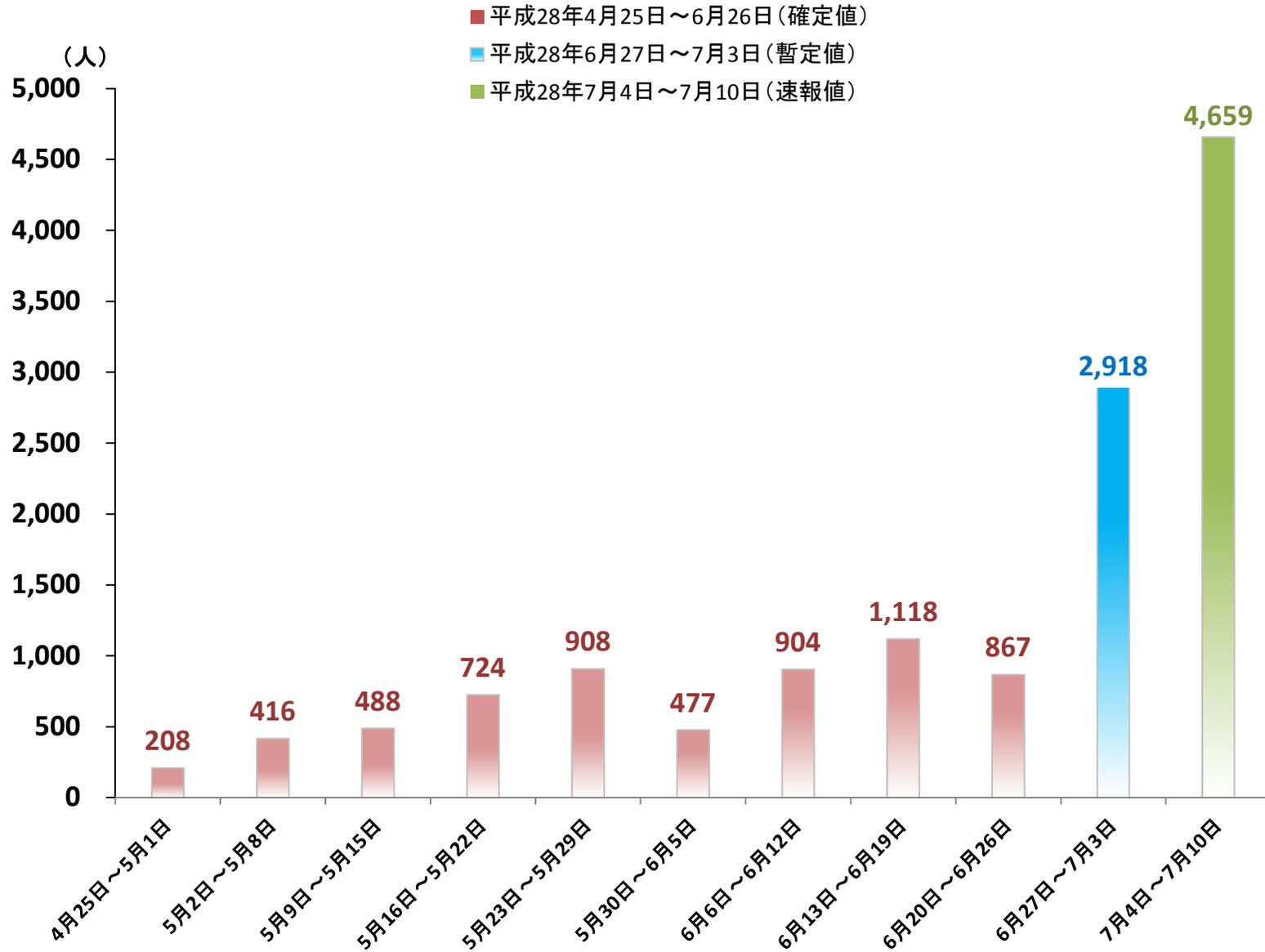
※平成28年は4月25日から調査を開始

(参考) 梅雨明けの時期

	平成28年(2016)	平成27年(2015)	平成26年(2014)	平成25年(2013)	平成24年(2012)	平成23年(2011)	平成22年(2010)	(平成)
沖縄	6月16日ごろ	6月11日ごろ	6月26日ごろ	6月11日ごろ	6月23日ごろ	6月9日ごろ	6月19日ごろ	6月23日ごろ
九州	—	7月17～29日ごろ	7月16～20日ごろ	7月8日ごろ	7月23日ごろ	7月8日ごろ	7月17～20日ごろ	7月14～19日ごろ
中国・四国	—	7月20～24日ごろ	7月20日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月18～21日ごろ
近畿・東海	—	7月20日ごろ	7月20～21日ごろ	7月7～8日ごろ	7月16～23日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
関東甲信	—	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月6日ごろ	7月25日ごろ	7月9日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
北陸	—	7月21日ごろ	7月21日ごろ	8月7日ごろ	7月26日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月24日ごろ
東北	—	7月26～29日ごろ	7月25日ごろ	8月7～10日ごろ	7月26日ごろ	7月9日ごろ	7月18日ごろ	7月25～28日ごろ

資料7

平成28年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)ーグラフ

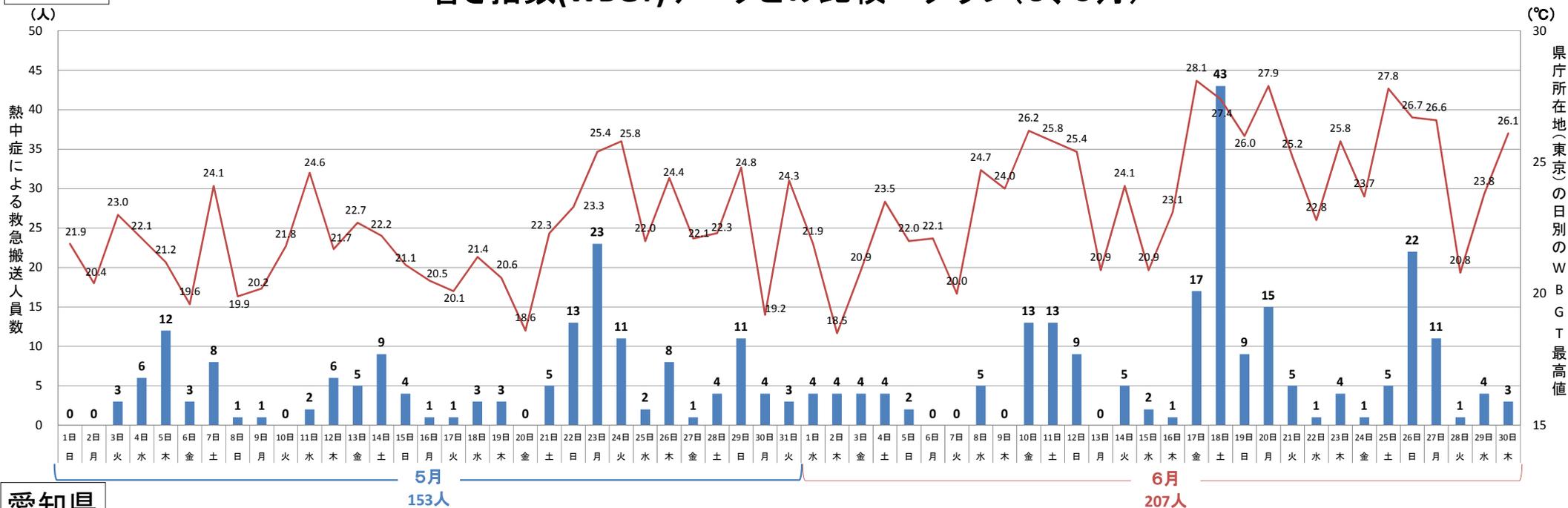


* 暫定値(青)と速報値(緑)の救急搬送人員数は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

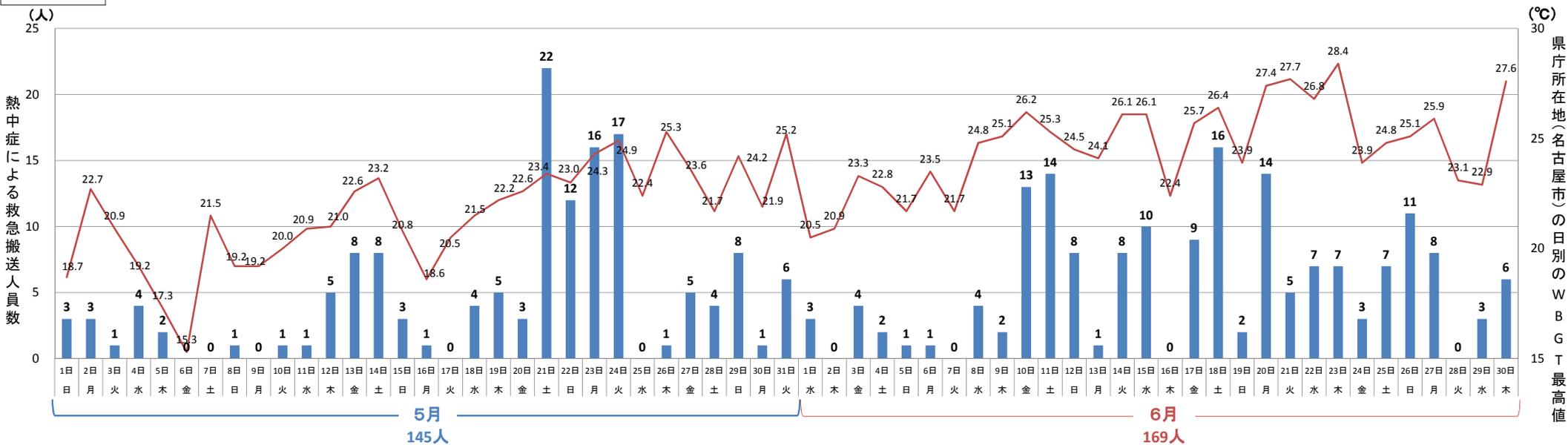
参考資料

主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数(WBGT)データとの比較ーグラフ(5、6月)

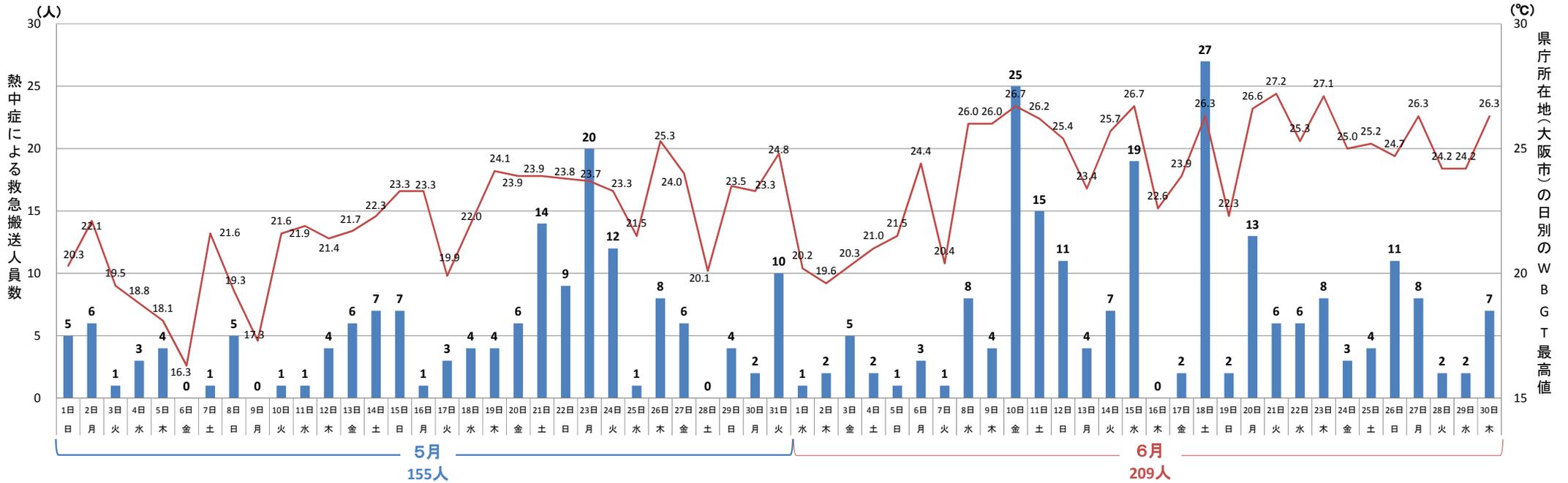
東京都



愛知県



大阪府



【参考】

- (1) 暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature)とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。
- (2) 暑さ指数(WBGT)の温度基準、注意すべき生活活動の目安、注意事項(右図)環境省HPより抜粋
- (3) 環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28~31℃※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28℃※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※ (28~31℃) 及び (25~28℃) については、それぞれ28℃以上31℃未満、25℃以上28℃未満を示します。日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より